



NPO 法人
 長浜観光ボランティア
 ガイド協会
 〒526-0059
 長浜市元浜町 14-12
 湖北観光情報センター
 電話 0749-65-0370
 発行責任者・馬場智章

鯡の湖会のおもい

1. 真心を込めたおもてなしの心で、お客さまをあたたくお迎えします。
2. 地域の歴史や文化、豊かな自然を温かい人情とともにお客さまにお伝えします。
3. 常に幅広い知識を身につけ、魅力ある文化観光都市長浜の発展につくします。

案内できる力×個人の力

今こそ力を高めよう

理事長 馬場智章

活躍の機会に備える

私たちが新型コロナウイルス感染症という病気の恐ろしさを知って1年半が過ぎましたが、いまだにそれから逃れることが出来ず残念な状況にあります。昨年度年間活動実績は、「お客様数」で前年（令和元年）11月1か月の実績にも及ばず、私たちの安全と感染拡大防止のためとはいえ、活動休止は苦渋の決断でした。

私たちは、長浜に来られた観光客の方々に、街の魅力をお伝えするボランティア活動の展開を目的に、三十六年前に結成された会の一員です。今は活動が思うようにできない状況にあり

ますが、いずれ再び活躍の機会はやって来ます。その時に備え、今やることは協会の「力を高める」ことです。

『協会の力』は次の2つの掛け算と考えます。

- ①「いつでも」「どこでも」案内できる力
- ②お客様の「聞きたい案内」ができる個人の力。

令和3年度長浜観光VGG活動の目標

ワクチン接種後の回復を見すえて！

感染防止策の徹底

去る4月23日、会員三十名出席のもと、令和3年度通常総会を南郷里まちづくりセンターにて行いました。コロナの第4波と言われる兆しのなか、限られた時間でしたが、活発な意見や質問で、充実した総会となりました。

①は会員数 ②は会員の幅広い力。この2つを大きくすれば『協会の力』は大きくなり、県下最古の暖簾のれんを守ることに繋がります。

相互研鑽が大切

入会希望者を探すことは大変ですが、皆さ一人ひとりが周りの人に声をかけて頂くことで探し出すことに結び付きます。是非ご協力をお願いします。

私たちの案内するところは広範囲に及んでおり、各場所での説明には個人のノウハウがあると思います。それを披瀝し合って高め合う相互研鑽をお願いします。

秋までにはワクチン接種が進み観光客も増えることに望みを託し、前に向かって新しい一歩を踏み出しましょう。

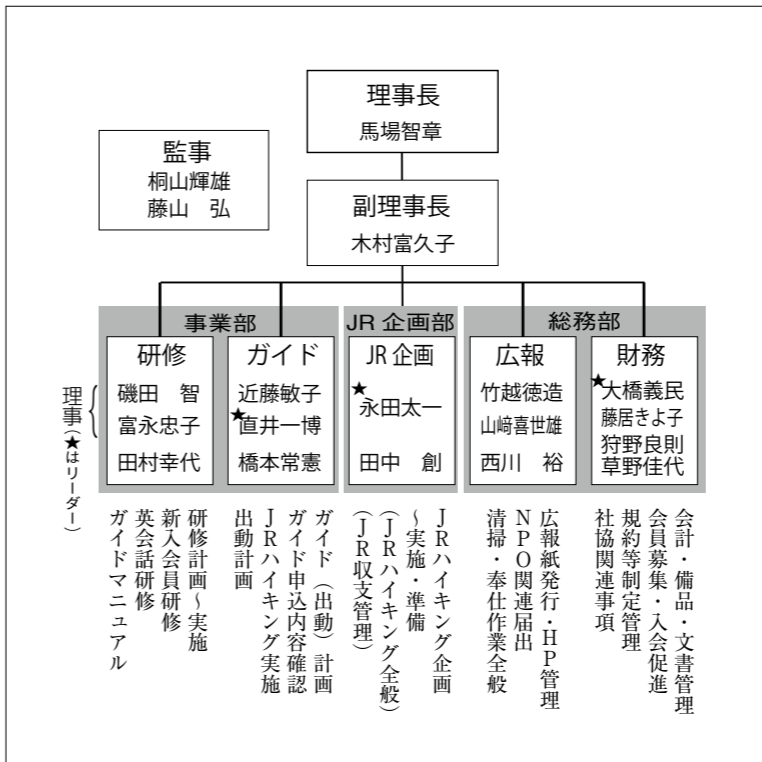
副理事長 木村富久子

た。その時に出了た質問等を尊重し、今年度の活動に反映させてゆきます。

令和3年度は引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、当協会を取り巻く環境は厳しい状況が続くと思いますが、今後もイヤホンガイドシステムの活用をはじめとする感染防止対策の徹底をしっかりとしていきたいと思

います。また、ワクチン接種が進むことで、感染終息に向かい来訪者数が回復することを期待しています。このようななか、行政や、他の団体と連携を取りながら、コロナ対策を十分に行い、観光客の受け入れ体制とおもてなしの充実を図りたいと思っています。

また、長浜市、敦賀市、南越前町で文化庁に申請していた「海を越えた鉄道（世界へつながる鉄道のキセキ）」のストーリーが、昨年日本遺産に認定されました。それらの鉄道遺産は、地域に密着した文化財として今も



令和3年度各部役割とスタッフ一覧

生き続けています。この旧北陸トンネル群のガイド依頼もあり、当協会の幅がもっと広げると期待しています。

即戦力を期待

次に、令和2年度から令和3年度にかけて八名の優秀な新入会員の方が、入会してくださいました。本当に嬉しく思っています。活力とパワーに溢れておられる方ばかりです。それぞれ即戦力になっていただけるものと楽しみにしております。

最後に、市長がいつも「長浜は歴史の重みと文化の香りが日本一」とおっしゃっておられます。歴史と文化の魅力を楽しんでガイドし、一期一会を大事にしながら、お客様に長浜の思い出をたくさん持って帰っていただきたいと思っております。

段々と暑さ厳しくなってきました。会員の皆さまのご健康をお祈り申し上げ、あわせて、一日も早い新型コロナウイルス感染症の終息を祈念します。

総務部の目標にご理解を

大橋義民

コロナ禍においてのガイド活動休止は感染防止の観点からやむを得ないと思いますが、ワクチン接種の遅れから経済が低迷し様々な問題が浮き彫りになってきています。総務部は次の重点目標で活動に取り組みますのでご理解とご協力をお願いします。

■組織の若返り

こういう時こそ、知恵を出し合い伝統あるVG協会の存続のため高齢化しつつある組織の若返りを図ること(新入会員の獲得)。また、VG協会の活動状況を市民の皆さんに知ってもらい、この地に住んでよかったと思える身近な歴史文化の継承等(ホームページ、鯨の湖、鯨の湖通信)。

■ほうれんそう

総務部(広報担当・財務担当)は、業務の幅が広く、また深く色々の情報を得て運営していますので、「ほうれんそう(報告・連絡・相談)」について何か情報等があればお知らせください。

協会ホームページの「会員掲示板」にダイレクトイン ▼
 スマホでQRコードを読み、いつも掲示板「お知らせ」情報をチェックしよう



7月〜9月 スケジュール

7月15日	英会話研修
8月19日	英会話研修
8月31日	全体集会

9月8日	湖北ブロック交流研修会
9月16日	英会話研修

研修部会 今年度の重要課題

磯田 智

観光ボランティアガイドの役割は地域の観光資源をご案内しその魅力を知り、体験していただくことにあります。その為の基礎知識を習得していく手助けを行っていくのが研修部会の役割と認識しています。

昨年年初から始まった「新型コロナウイルス」問題でガイド活動の主体業務である、案内活動休止、「三密」に繋がる集会所控えるなどの処置から研修も縮小状況にあります。今年度も世界的にもコロナ問題の収束の見通しがつかない状況です。このような状況下、今年度の研修部門の最重要課題についても具体的な方向性は見いだせません。少なくともこの二年間、ガイド活動が停止している間も新しい地域のガイド資源、従来とは違った新しい発見、案内を変更しなければならぬ事項など、重要課題が山積しています。具体的に言えば、



新入会員研修 (大通寺 6月17日)

- ① 竹生島宝蔵寺修復に伴う新たな発見
- ② 日本文化遺産に登録された「鉄道遺産」
- ③ 新しく案内を要請される「安藤家」
- ④ 新たに修復、公開された国指定史跡でもあ

る「下坂氏館跡」

これらはコロナ後の観光客増に対しても研修を行っておかなければならない事項でしょう。

⑤ 新人研修(随伴・座学)

この数年間新入会員に対する研修がなされていけませんので、今年度協会の重要課題にも取り上げられている世代交代に向けても、これが重要課題としてあげられます。

⑥ 外国人旅行者の受入れ体制 東京五輪、パラリンに伴い多くの外国人の来訪が予定されていますが、残念ながら見込めなくなりました。いざ日本への外国人観光客の急増が見込まれ、これに対応出来る外国語能力の向上は必至です。

ガイド能力の向上は協会の行う活動だけでなく自身でも学ぶ、経験する事も重要です。材料は至る所にあるはず。皆さんお持ちの『活動ハンドブック』『湖北ミニ辞典』その他の配布本など、研修材料です。外出自粛の時期、自己研修しガイド能力を向上させましょう。

今、思うこと

塚田利満

会員の皆様、こんにちは。昨年の黄色いチラシ(体験入会)を見て、軽い気持ちで連絡を入れてしまった塚田利満(トシと呼んでください)です。残念ながら今も体験ないまま今日に至っていますが、幸いにも制限されながらも会員研修は実施され、皆さんの様子や雰囲気は少し見えてきたところです。

今、嬉しいことは、長浜の街中を久しぶりに歩く中で街の再発見を楽しんでいることです。私の若い頃と比べても随分新しい人や家並みに変わりましたね。また見ていると、本当はしっかりと見えていなかったことも随分とあることも分かったりして、面白いです。皆さんの通常活動ができないことへの無念さは、私たち新人の比ではないことを承知しております。再び早い時期に活動再開となって生き生きと躍動されるお姿を拝見したく思っております。

◆退会者のおしらせ

山口忠義 様

長い間お疲れさま。ありがとうございます。平成15年入会後、ガイド活動はもとより理事長を2期四年務められた。新事業に卓越した指導力で協会を運営された。



竹生島

「琵琶湖周航の歌」歌碑

永田太一

「われは湖の子：」で始まる第二の県民歌といわれているこの歌。琵琶湖に浮かぶ観光の島「竹生島」の入り口にある歌碑。つい見落



船着き場の琵琶湖周航の歌の歌碑 (写真・永田太一)

とが大好きな私はまずここで周航歌を歌います（日本人のお客さんには好評ですが、さすが外国の方には響きませんでした）。

6 番までである歌詞、琵琶湖周辺にはゆかり

の地に歌碑が、八か所（新しく作られた長浜の歌碑は修復中？）にあります。以前、一日ですべての歌碑を巡られた番組が放映されていました。

「竹生島に珊瑚？」

意地悪な質問に、当時（大正六年）の周航中、今津から長浜までは小雨模様で、湖上に突如現れた島が浦島太郎に出てくる竜宮城を連想させたのではと語られていました（周航の歌研究者・元NHKアナウンサー飯田忠義さん）。

確かに、琵琶湖に浮かぶ夢の楽園（瑠璃の花園）、古代からの伝説や弁才天さんと観音さんの仏さまに抱かれた神秘とロマンにあふれたこの歌詞は、竹生島の魅力をアピールしています。

一〇〇年あまり前の大正六年、第三高等



今津航路側から見た竹生島（歌詞は琵琶湖周航の歌 4 番）

学校（現京都大学）に学び、水上部（ボート部）による周航の途中、今津の宿で詩を発表した小口太郎。その頃、流行っていた『ひつじくさ』（吉田千秋・作）の曲をつけて歌ったところぴったり（小口は別のメロディーを考えていた？）。小口太郎が詞を作ったのも、吉田千秋が原曲になった『ひつじくさ』を作ったのも、ともに二十歳の時（ともに三十歳までに早世）。一度も出会うことのなかった二人の詞と曲が見事に一体となり、今も大勢の人に親しまれ歌われている琵琶湖周航の歌。その感傷に浸る場所です。

（周航の歌 100 周年記念誌『琵琶湖周航の歌誕生の不思議』琵琶湖周航の歌研究者・飯田忠義氏の原稿より一部引用）

長浜観光ボランティアガイド協会会報
「舩の湖」 第一五一号
令和三年七月一日発行
発行人・馬場智章／編集人・山崎喜世雄
発行所・NPO 法人長浜観光ボランティアガイド協会
長浜市元浜町 14・12 四居家内